

## ハリケーン”サンディー”の爪あと - 西日本防災システム

2012 11 26

アメリカを襲ったハリケーン「サンディー」は皆さんよくご存知だと思いますが、火災には関係ありませんが少し情報を・・・ お亡くなりになった方のご冥福と早期の復興を心よりお祈りいたします。

ニューヨーク州のクオモ知事は26日の記者会見で、10月末に東部を襲ったハリケーンサンディーについて、被災地の復旧や被害の再発防止に必要な費用が、ニューヨーク州だけで約419億ドル(約3兆4400億円)に上るとの推計を発表しました。

サンディーによるニューヨーク州内の家屋の損壊は30万5000棟、停電は219万世帯にもなりました。被害が最も大きかったのはニューヨーク市で、ブルームバーグ市長は26日、市の被害総額を約190億ドル(約1兆5600億円)と想定しているようです。

クオモ知事は、損壊家屋や停電などの被害は2005年に米南東部を襲ったハリケーンカトリーナを上回る過去に前例のない規模だとも指摘しました。

ハリケーン「サンディー」の打撃は、ニューヨーク市の中でもクイーンズの南端部が最も激しく、波が板敷きの遊歩道を引き裂き、道路を洗い流しました。

町は1.6メートル以上冠水し、浮き上がった車が芝生の上まで運ばれました。水が引いた都市には砂丘だけが残りました。サンディーが招いた火災により、ブリージーポイントでは110棟以上の家屋が焼失したようです。

10月29日から30日にかけての夜間に、ニューヨーク市全体で22人以上が死亡し、これを含めてサンディーによる死者は全米で少なくとも50人に上りました。カリブ諸国では70人以上が死亡しました。

サンディーは、大西洋地域では観測史上最大となる直径が約1440Kmに及ぶハリケーンで、ニューヨーク州とニュージャージー州に特に大きな被害を与えましたが、米国北東部の大半に損害をもたらしました。

死者の数が極端に多くならなかったのは、(1938年のニューイングランド地方を襲ったハリケーンでは、死者の数が800人でした)当局の危機対応によるところが大きいようです。

ニューヨーク州のアンドリュー・クオモ知事、ニュージャージー州のクリス・クリスティー知事、ニューヨーク市のマイケル・ブルームバーグ市長が陣頭指揮を執りました。連邦緊急事態管理局(FEMA)が3人の首長を見事にサポートして、このハリケーン危機を乗り切ったようです。

それでも、今回のハリケーンはニューヨーク市のインフラの脆弱性をさらけ出し、いつかはやって来るさらに強力なハリケーンに襲われる前に、この脆弱性に対処する必要があることが明白なようです。

ニューヨーク市では、ハドソン川とイーストリバーの水が堤防を越え、マンハッタンの街路やグラウンド・ゼロ記念公園にまで押し寄せたようです。ブルックリンに住む250万人の人々とマンハッタンをつなぐブルックリン・バッテリー・トンネルは、完全に水没しました。

クイーンズとマンハッタンをつなぐミッドタウン・トンネルは、洪水に強い構造になっていましたが、それでもやはり浸水し、地下鉄もかなりの部分が水没してしまったようです。

台風には慣れっこな私達ですが、ハリケーンという途方もない怪物が日本を襲ったらどうなるのでしょうか。気象学的に日本には来ないのかも判りませんが、何が起こっても不思議ではない自然界ですから、暇な時に考えてみるのも良いかも知れませんね。私のいい加減な知識ですと、ハリケーンの発生は確か暖かい海上でそのエネルギーが溜められるはずで、ですから日本に来る台風とは少し違います。のはずです たぶん・・・??

少しはハリケーンのこと頭に置いておこーっと

ハリケーン情報はインターネットより



西日本防災システム

N:SHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

